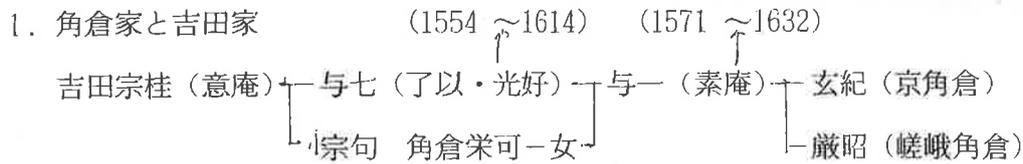


海外雄飛一角倉了以・素庵の仕事



・吉田家は嵯峨の土倉・医師、・角倉家も土倉

2. 了以の仕事

(1) 室町末期・戦国の海外貿易

- ・最後の遣明船（日本国進貢船・策彦周良・天龍寺僧）に宗桂が随行(1547・天文16)
- 16世紀以降の遣明船は大内・細川船。四隻・637人、上京人数50人。約千石積み。
- 居座＝派遣者の代理として五山僧、土官＝大商人（堺など）、客商・従商・通事
- 吉田宗桂は中国の河川・大運河の航行を実見。策彦の『入明記』

(2) 秀吉の海外貿易政策

- ・明の「海禁政策」の緩和、欧州勢力の進出、琉球王国の衰退に乗ずる。
- ・長崎・京都・堺商人に朱印発給説。のち博多商人（神谷宗湛・島井宗室ら）の重用。
- アンナン、トンキン、シャム、チャンバ、カンボジャ、ルソン、台湾など。
- ・のちに諸国（高山国、ルソンなど）に威嚇的朝貢強要。

(3) 了以と保津川開削 資料①

2. 素庵の仕事

- ・策彦周良の影響で儒学・仏教を学び、漢学の古典にも通ずる。藤原惺^高・朝鮮の姜沆^{カンハク}の弟子となる。能書家（角倉流・寛永三筆の一人）、嵯峨本（装丁）の刊行。
- ・徳川家康の朱印船制度化（1602・慶長7）⇒第一回角倉船のトンキン派遣（1603 慶長8）「回易大使司」。のち近江国坂田郡代官、淀川転運使、木曾川採運使などに任命さる。
- ・輸出品 扇子、傘、薬缶、硫黄、鉄、銅・献上品 水晶珠、琥珀珠、白檀、白紙など
- ・輸入品 青貝、白絹、牙扇、香蠟、薫香、唐綾、綸子、生糸、書籍、肉桂、薬材など
- ・高瀬川（3節）、富士川、木曾川の開削。富士川は成功せず。

付・茶屋四郎二郎家の場合（初代清延・二代清忠、三代清次）

徳川家康の近侍商人＝呉服商人 茶屋船はコーチシナへ渡海。

- ・その他の京商人 亀屋栄任、田中勝助(1610・慶長15) ノビスパン渡海。家康にぶどう酒と紫羅紗を贈る。